

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## ドイツ銀行（証券コード：-）

### 【据置】

外貨建て長期優先債務格付 格付の見通し	A A - p 安定的
------------------------	----------------

### 格付事由

格付は、世界最大の金融グループの一つとしてドイツおよびその他欧州を中心とした強固な事業基盤、比較的厚い自己資本、リスク性資産の大幅な削減などを反映している。

格付の見通しは安定的である。09年以降の業績は、トレーディング収入の増加などから収益力が回復する中、信用コストの増加を吸収し、底堅く推移している。当行の業績は、投資銀行事業を主力としているため金融市場の影響を受けやすいものの、ドイツのリテール銀行大手ポストバンク株の過半数取得によるリテール部門の強化から、収益の安定性が中期的に高まることが期待される。ポストバンクを含む一連の買収によりリスク性資産の増加が見込まれるが、増資や底堅い業績により Tier1 比率は今後も良好な水準を維持すると見られる。

#### 1. 主力の投資銀行部門における強固な事業基盤

当行の10年9月末のグループ全体の総資産規模は1兆9,577億ユーロ（約223.6兆円）とドイツ最大であり、全世界72ヶ国に1,964の支店網(09年12月末)と1,460万人超の顧客基盤を有する世界でも有数の金融グループである。ユニバーサルバンクとして広範なサービスを提供しており、「法人・機関投資家向けビジネス(Corporate and Investment Bank、以下 CIB)」及び「個人・資産運用部門(Private Clients and Asset Management、以下 PCAM)」を中核とした事業を展開している。また、今般の金融危機においても公的資金の注入を受けておらず、資金調達に問題が生じることもなかった。

CIB 部門ではトレーディング業務において強みがあり、特に為替においてはグローバルベースで最大のシェアを有している。PCAM 部門はポストバンクの連結子会社化によりドイツのリテール市場における事業基盤が強化されている。このほか、プライベートバンクであるサル・オープンハイムを10億ユーロで買収し、富裕層向けビジネスにおいてドイツ最大手となるなど事業の強化を図っている。

#### 2. トレーディング収益の改善などから業績は底堅く推移

業務収益は全体の6割程度をCIB部門が占めるなど、金融市場の影響を受けやすい構造となっている。09年の税前利益は、金融市場の安定化に伴いCIB部門のCorporate Banking and Securities(以下、CB&S)におけるトレーディング収益が大幅に回復したことが寄与し、黒字となった。10年1-9月の税前利益については、ポストバンク買収関連費用23億ユーロの影響により33億ユーロと前年同期比26.5%の減益となったものの、その影響を除いたベースではトレーディング収益の拡大、ABN AMROのオランダ商業銀行部門買収の効果などから56億ユーロと前年同期比26.1%の増益となっている。今後はポストバンクの連結子会社化による安定した収益基盤の確保が期待される。また、米金融規制などが当行業績に与える影響を注視していく。

#### 3. 増資により健全な財務構造を維持

資産の質は世界的な景気後退の影響などからやや悪化しており、09年末の不良債権比率（Impaired Loan/Total Loan）はレバレッジド・ローン、商業用不動産貸付などのトレーディング資産の一部を国際会計基準第39号に伴い、簿価評価が可能な貸付として再分類したことなどから2.8%と前年末の1.4%から上昇

した。10年9月末時点ではほぼ変わらずの2.7%となっており、不良債権の増加ペースは鈍化してきている。

BIS Tier1比率は業績改善による自己資本増とリスク性資産の大幅な削減により前年の10.1%から09年12月末には12.6%まで改善した。ポストバンクの連結子会社化などによりリスク性資産の増加が懸念されるものの、その影響を上回る102億ユーロの増資を実施しており、Tier1比率は良好な水準を維持すると考えられる。

(担当)内藤 寿彦・幾島 真

#### 格付対象

発行体：ドイツ銀行

#### 【据置】

対象	格付	見通し
外貨建て長期優先債務	AA-p	安定的

---

#### 格付提供方針に基づくその他開示事項

---

- 信用格付を付与した年月日：2011年1月11日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：村岡 信吾  
主任格付アナリスト：内藤 寿彦
- 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ(<http://www.jcr.co.jp>)の「格付方針等」に「信用格付の種類と記号の定義」として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ(<http://www.jcr.co.jp>)の「格付方針等」に「金融法人の信用格付方法」として掲載している。格付方法は追加・変更されることもあるが、その場合は時系列的に掲載する。本リリースの公表日と格付方法の公表日(各方法が有効となった日)とを照らし合わせた上で、上記格付方法を参照されたい。
- 格付関係者：  
(発行体・債務者等) ドイツ銀行
- 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・発行体が公表した発行体の監査済財務諸表  
・発行体が公表した発行体の業績、経営方針などに関する資料および説明  
・経済・業界動向などに関し中立的な機関が公表した統計・報告
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、または発行体もしくは中立的な機関による対外公表など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 非依頼格付について：  
本件信用格付は格付関係者からの依頼に基づかない信用格付である。格付関係者からは、信用評価に重要な影響を及ぼす非公表情報を入手していない。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

#### 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、

的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

## 用語解説

長期優先債務格付と短期優先債務格付：債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付と位置づけています。個別債務の評価（債券の格付、ローンの格付等）では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付が長期優先債務格付と異なること（上回ること、または下回ること）もあります。

格付の見直し：長期優先債務格付または保険金支払能力格付が中期的にどの方向に動き得るかを示すもので、「ポジティブ」「安定的」「ネガティブ」「不確定」「方向性複数」の5つからなります。今後格上げの方向で見直される可能性が高ければ「ポジティブ」、今後格下げの方向で見直される可能性が高ければ「ネガティブ」、当面変更の可能性が低ければ「安定的」となります。ごくまれに、格付の見通しが「不確定」または「方向性複数」となることがあります。格上げと格下げいずれの方向にも向かう可能性がある場合に「不確定」となり、個別の債券や銀行ローンの格付、長期優先債務格付などが異なる方向で見直される可能性が高い場合には「方向性複数」となります。

p（ピー）格付：格付対象先からの依頼に基づかず、公開情報等に基づき、当該格付対象先の理解を得た上で公表する格付です。依頼に基づく格付と区別するため格付記号の後に「p」を表示しています。また、すべてのp格付において、格付対象先の格付プロセスへの参加を得ています。

## 情報提供電子メディア(検索コード)

BLOOMBERG（和文:JCRA / 英文:JCR） REUTERS（JRS1120） QUICK（和文:QR / 英文:QQ） JIJI PRESS 共同通信 JLS

## 本件に関するお問い合わせ先

情報・研修部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

## 株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル